

2022年5月24日

エリトリア国独立31周年祝賀オンラインセレモニー

ご挨拶（日本語訳）

米谷光司外務省アフリカ部長

エスティファノス在京大使、

ご参加の皆様、

本日は、このような記念すべき行事にお招きいただき、誠にありがとうございます。
エリトリア国の独立31周年を迎え、心からのお祝いを申し上げます。

エリトリアは、インド洋とスエズ運河・欧州を結ぶ国際航路に面し、我が国が推進している「自由で開かれたインド太平洋」を実現する上で重要な国です。2017年には首都アスマラが世界文化遺産に登録されたほか、鉱物資源や紅海の水産資源等による経済成長の可能性を秘めています。

アフリカの角地域は引き続き不安定な情勢にあり、同地域の安定化のためにも、エリトリアの役割はますます重要になっています。

本年1月に、日本は、エリトリアに兼勤駐在官事務所を開設し、既に現地では3名の館員が日々尽力しております。

日本は、1991年のエリトリアの独立以来、人間の安全保障の観点から、エリトリア国民の生活や発展にとって不可欠な生活基盤改善のための支援を実施して参りました。例えば、アスマラ市上下水道公社の水質管理能力を強化するための専門家の派遣や、給水・浄水関連機材の供与を通じ、アスマラの市民へ安全・安心な水の供給を行うことを支援しています。

本年3月に開催されたTICAD閣僚会合には、オスマン外務大臣にご出席いただき、平和と安定のセッションにて、経済社会の発展に向け、日本との協力を

深化させていきたい旨発言されました。本年8月のT I C A D 8では、アフリカ自身が主導する発展を力強く後押しし、ポスト・コロナも見据えたアフリカ開発の針路を示す機会としたいと思います。

今後も、日・エリトリアの二国間関係の一層の発展に向けて、エリトリアと手を携え、緊密に連携していきたいと思います。

エリトリア国民にとっての幸多き素晴らしい飛躍に満ちた未来を心からお祈り申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。